八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 千歯

現地の通称:

資料種別: ◉製品-実物 ○製品-レプリカ ○製品-模型 ○製品図面 ○写真等 ○図書掲載 ○その他

資料種類: ☒人力用具 ☒手押式 ☐耕耘用 ☒調製用
☐畜力用具 ☐乗用式 ☐施肥播種 ☐施設類
☐原動機具 ☐牽引式 ☐管理用 ☐機素
☐トラクタ具 ☐定置式 ☐収穫用 ☐その他

管理プレートNo.

台帳No. Y150

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 不明

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

稲などの脱穀、台等が欠品　用途によって櫛状金の形態が変るため、標本の用途を知りたい。

干歯（せんば）は、鋼鉄製の扱歯(こぎば)を台木に櫛状（1．5mm間隔で全幅30cm位）に配列し，これを脚と踏板で支える構造であり。刈った稲束を広げて扱歯に引っかけて穂先の籾をこき(扱)落す。麦を扱く千歯は「麦扱き」と称し，扱歯の間隙が少し広い。元禄（1690年代）時代に発明され、扱箸に比べて高能率なため、主作業者の後家さんが失業するとして後家倒しと呼んだ。　明治末期に足踏み脱穀機が発明され、千歯は急速に衰えた。

利用経過収集記録意義等

千歯が発明される前は、二つ割りにした竹片の上端をそぎ，下端を合せ結んだ扱箸を使った。これを立て，または台に取付けて，刈った稲穂を竹片の間に挟んで上端を握り，藁を引っぱって籾をこき落す。

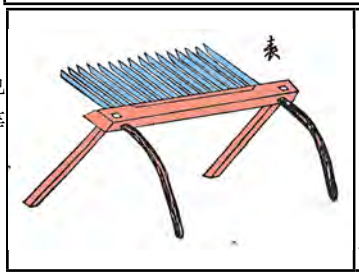
仕様書_解説等

仕様未調査

関連図　1：千歯全景
2：千歯作業風景
4：扱箸による脱穀風景

右に全体図

外観特色関連図等



資料の所在

公開展示室

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編